

## 東京都推進協・研究発表会

## 朝NIEで頭を整理、子供たち活発に



さまざまな壁新聞が報告された  
NIEの研究発表会

新聞を使った授業の研究発表会（東京都NIE推進協議会主催）が2月18日、東京・内幸町の日本プレスセンタービルで開かれ、小中高校の教諭ら約60人が、さまざまな実践報告に耳を傾けた。

小学校の教科書に新聞活用がたくさん盛り込まれた「NIE元年」に、日本新聞協会が選んだNIE実践指定校35校（小中高と特別支援）の実践報告書が公表されたほか、代表して4校の教諭が実践内容を説明した。

北区立東十条小の山野辺愛子教諭は、東日本大震災直後のテレビ欄を使い、「情報とくらし」について考えた5年・社会の授業を報告。また、朝読書の時間に新聞を読んで気になる記事を切り抜き、スクラップを作る「NIEタイム」を全12学級で週1回行っている取り組みにも触れ、新聞活用によって「子供たちが頭の中を整理でき、さらに積極的になった」と成果を語った。

朝の「NIEタイム」は、駒沢学園女子中学・高校（東京都稲城市）でも行われ、国語担当の稲津恵子教諭が中1から高3まで、朝のホームルームや授業などを使い、全学年で行っている新聞活用例を報告。読売新聞のNIE投書欄を使って討論したり、記事の感想を述べたりすることで、「学力が向上し、子供たちが前に踏み出す力を作ることができた」とまとめた。

杉並区立松渓中の社会担当・矢内一弘教諭は、社会科で国連を学ぶ時に、国連が関係した最新記事を使うなど、日頃からタイムリーな新聞活用を心がけている実情を報告。テストでも新聞記事を一部で取り入れ、「生徒が世の中のニュースに関心を持つようになってきている」と説明した。

また、武蔵野市立第五中の佐野貴宏教諭は、新聞から世界に関係する記事を

見つけ出し、世界地図でその国を確認する授業を展開。「子供たちが、世界に目を向けるようになり、社会科の学習が世の中とつながっていると分かったことが成果」と話した。

